（様式４）

募集広報活動の新たな取り組みについて2（2）

産業デザイン科　髙松　徹

1　はじめに

当校の応募状況は年々減少の傾向を見せている．「どうすれば技術系の職業を目指す学生が増加するのか」という問題に取り組むため，ボランティアの学生スタッフと職員が共同で運営・制作する形態で，令和 2 年度にスタートさせた「学校通信制作プロジェクト」は本年度で 4 年目を迎えた．活動内容はその都度，校 SNS でアップし，その原稿作成は昨年度から学生リーダーが担当し，より同世代に身近な表現のものとした．

4 年間の活動を振り返り，実践的な授業形態としての側面と，募集・広報活動としての側面の両面より検証する．

2　研究経過（プロジェクト実施経過）

令和 2 年度，学生と職員が共同で推進する「技術系女子活躍推進プロジェクト」「学校通信制作プロジェクト」の両プロジェクトをスタートさせた．

1 つ目の技術系女子活躍推進プロジェクトは，産業デザイン科と情報技術科の女子学生合わせて 17 名で運営し，各回テーマを決めてミーティングを行い，意見を出し合う形式をとった．最後には，実施経過をパンフレット形式の報告書にまとめ，神奈川県内の高校に配布するなど広報物としても活用した（図 1）．また，毎回の実施状況を校 twitter（現、X）で広報し，学生のユニークな活動として PR した．

図 1 技術系女子活躍推進プロジェクト報告書兼PRパンフレット

もう 1 つ学校通信制作プロジェクトも，令和 2 年度からスタートした．校の魅力を発信することを目的に，取材から記事作成，DTP ワーク，製本作業まで学生が協力し合って進め，学校通信を発行した．学校通信は「MAKE IT」と命名して県下の高校に配布し，校のさまざまな情報を伝えた．また，印刷物を送るだけでなく，校の twitter（現、X）アカウントや，Web サイト上からも発信した．

令和 2 年度に第 1 号と第 2 号，令和 3 年度に第 3 号，令和 4 年度に第 4 号，そして本年度に第 5 号を発行した（図 2）．第 5 号には，どうすれば女性が技術者として活躍できるかという内容で，同時期にスタートし 1 年間のみ活動した「技術系女子活躍推進プロジェクト」の内容を特設企画として包含し，女性にアピールすることを目指した．作成された学校通信は，関連機関へ送付するとともに，校のホームページでも閲覧できるようにして，募集 PR の手段としている．

図 2　学校通信制作プロジェクトでの編集作業風景

3　プロジェクト実施による成果

3.1　訓練実施上の成果

プロジェクトについて実践的な授業形態という側面から考察してみる．

(1)　先輩から後輩への直接指導

産業デザイン科の訓練においては，通常，上級生が下級生を指導することはあまりない．今回のプロジェクトでは，アプリケーションの使用法から考え方のまとめ方まで，さまざまな場面で上級生が下級生を指導する姿が見られた．上級生にとっても下級生にとっても，チームワークを身に着ける良い機会となった（図 3）．

図 3 編集作業における先輩から後輩への直接指導

(2) 企画から制作まで一貫して体験

プロジェクトは，企画段階から学生自体が検討を重ね，運営体制，スケジュール，制作物仕様から実際の制作まで，一貫して学生主導で実施した．思わぬハプニングによるスケジュールの変更など，全てが生きた授業として学生は体験することができた．

(3) 実際に使用する製品を訓練で制作

通常の授業の中では，実際に使用する製品を作成することはほとんどないが，学校通信制作プロジェクトでは，高校等外部へ配布する目的で始まっている．そのため，学生の取り組む姿勢も真剣で緊張感があり，実社会での活動に近い訓練を実施できた．

(4) 他学科学生との交流

少数ではあるが，産業デザイン科以外の他学科の学生がプロジェクト参加してくれた．普段の授業では交わることのない学生交流が生まれ，学生にとって大きな刺激となった（図 4）．

図 4 他科の学生と協力して DTP 編集作業

3.2 広報面での成果

(1) 活動自体を SNS 等で発信するという広報

プロジェクトの計画段階から，この取り組みを SNS や校ホームページで発信してきた．週一で行われるプロジェクト後，毎回校 twitter での発信を続けた．多くはないが「いいね」を返してくれる人もおり，SNS 世代へのアピール貢献した．

(2) プロジェクト成果物が広報に活躍

学校通信制作プロジェクトは， 4 年間で 5 回学校通信を発行し，神奈川県内の高等学校に配布するなど，校内のユニークな情報を伝えるメディアとして実際に活用された（図 5）．学生募集目的での学校訪問時に持参すると，強い関心を持たれることが多く，重要なコミュニケーションツールとして大変有効であった．

技術系女子活躍推進プロジェクトでは，デザイン科学生ならではの，校のマスコットキャラクターの制作提案，それを掲載した報告書をフルカラー仕様のパンフレット形式で制作した．この報告書形式のパンフレットも学校通信同様，県内高校学校に配布し，広報の一環を担うものとなった．

(3) 校内掲示での PR

校内においてさまざまな活動を展示しているスペースに，活動内容や具体的な成果を掲示して，来客等に PR した．

図 5 制作された学校通信 MAKE IT

4 終わりに

学校通信プロジェクトは本年度で 4 年を迎えた．スタートした年は全てが手探りであり，無事に発行できるかもわからない状態であったが，学生が自主的に考え行動してきちんと結果を出していくことに正直驚きを覚えた．4 年目を終え，年度ごとの若干の差はあるものの，「学生自らが考え，計画し，実施していく試み」という部分では定着してきており，大変重要な授業の一つであるといえる．本取り組みは 4 年目を迎えて 1 区切りとはなる．今後もこのような校を活性化させる取り組みは必要であると思われる．